

倉敷市立幼稚園教育研究協議会（第5回）会議録

平成19年12月4日(火) 14:00~16:30

教育委員室

1 教育長あいさつ

2 協議

- 会 長 本日は預かり保育、適正配置についてしっかり考えていきたい。まず、専門委員会で議論したことについて事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局 資料に基づいて説明。
- 会 長 専門委員会から、就労を認めた上で預かり保育をすること、時間は16時まで、長期休業中は行わない、専任スタッフで預かり保育を行うことが出ているが、そのことについてどうあるのがよいのか様々にご意見をいただきたい。
- 委 員 就労のための預かり保育を認めることと、長期休業中の預かり保育は行わないことについての整合性がとれない。どういう方がこれで救われるのか。パートの人等の就労を認めるのであれば、長期休業中をどうするのかという問題がある。
- 事務局 専門委員会の話し合いの中で、長期休業中は子どもの発達段階からみて、親元へ返すのが基本であろうということになった。この形でどのくらいのニーズに対応できるのかは分からないが、幼稚園教育の本筋は残していきながら預かり保育をしていくということで話し合った。
- 委 員 子どもの生活は、家庭・地域・幼稚園の生活が連続して成り立っている。家庭での教育も大事にしたい。夏休みはそれなりのねらいがあって設定されていると思う。夏ならではの体験や家庭での経験を大切にしていきたい。子どもの健康面、安全面、衛生面から考えて、長期休業中はできないと考えた。
- 委 員 就労を認めるかどうかは大きな分岐点である。他の中核市でも長期休業中もしているところはある。就労を認めるのであれば、長期休業中も預かる方がすっきりする。教育活動を行うということについてだが、8時30分~16時まで教育することは1年生よりも長い。預かり保育の時間は教育活動ではなく、保育活動である。
長期休業中の預かり保育をしないのは就労支援からみて中途半端だし、子どもにとって負担になるという点が個人的にはすっきりしない。
- 委 員 先日、愛知県へ視察に行った。中核市以外の小さな市であるが、そこでは、全国に先駆け、幼稚園を市長部局におき、幼保が一体化され、3歳児保育、預かり保育もしていた。預かり保育の支援の会事務局を設置している。預かり保育は教諭の資格を持った人が2時間のパートで対応し、有料にしている。預かりの理由は問わず、就労以外の理由でも預かっている。都市部では遊びに行くところがなく、家庭に帰って子ども同士が行き来する関係がもちにくい地域もある。テレビやゲームで一人ぼつんと家にいるより、16時30分まで預かってほしいというパターンが多い。幼稚園から帰った後の居場所作りで悩んでいる保護者もいる。
- 委 員 就労を認めるという言葉が引っかかる。誰が認めるのか。預かり保育をしてあげるからとえらそうに聞こえる。言葉自体に違和感がある。
- 会 長 認める認めないというところではなく、もう少しゆるやかに考えていこうということでの言葉があると思う。これから倉敷市としてどういう方向へいけばよいかという方向で発言していただけるとありがたい。

- 委員 テレビやゲームだけで遊んでいる子どもに自閉症が多いと聞いたことがある。就労だけではなく、もっと広い視野で（地域活動も含めて）預かり保育をしていくということには大賛成である。そうすると自閉症はどんどん減る。苦勞している保護者のためにも、もっと門を広げていくとよい。
- 委員 就労を認める、認めないという議論自体がおかしい。預かり保育は小学校の児童クラブと同じ様なもので、放課後を安全安心に過ごすためにはよいものである。もともと預かり保育は就労を支援することで始まっているので、就労を認める認めないという議論自体がおかしい。
しかし、幼稚園で預かり保育を長時間、長期休業中もすることになると保育園へも影響してくる。少しずつ預かり保育を進めていくのがよいと思う。
どんな方でもと条件の幅を広げるのであればもう少し遅く（18 時ぐらい）までしてもよい。保育園との兼ね合いを考えれば、16 時までがよいかもしれない。
- 会長 幼稚園と保育園のすみ分けという意味で、時間は 16 時まで、通常の保育実施日に行うということになっているのではないか。お互いが折り合うことをどこかで見つけていかなければならない。
- 委員 高槻市の事例を見ると、子育て支援型と就労支援型の二つに分けている。就労を認めるとしたとき、全ての条件を同じに考えていくのか、保護者の就労の形態や要望によっていくつかのパターンがあって、その中で時間等を考えていくのか、どれぐらいの時間設定の中で、どういふ保護者の希望がかなうのか、受益者負担にするとどうなるのか、1 本でいくのか、多様な受け皿を用意して考えていくのか。そのあたりも選択肢の一つである。
- 委員 今、幼稚園と保育園の境目が分かりにくくなっている。今の預かりは誰もが使いやすいくみになっていないからもっと使いやすくしようということなので、就労でも他の理由でも預かればよい。いろいろな意味でのすみ分けも必要なので、時間は 16 時か 17 時が限界だと思う。
担当者は専任スタッフというのはいかかなものか。午前中保育をしている職員が交代でかわるのがよい。それに補助的に専任スタッフがかかるとよいと思う。コスト意識も考えていかなければならない。
- 委員 文科省は幼稚園教諭が預かり保育をすることは好ましくないという方向で、専任スタッフでという発想に立っている。ただ、コストの問題もある。カリキュラムを立て、ねらいや内容をもって質の高い保育をしていこうとするためには午前中の保育をした職員が当たる必要があると思う。しかし、サービスとして預かり保育をしているのだからこそ、専任スタッフがすべきだと思う。今幼稚園の先生は、夜遅くまで仕事をしており大変である。
- 委員 幼児教育の面では保育園も変わらない。
預かり保育に残る人数によって交替で担任が関わる必要があると思う。
- 委員 幼稚園の担任が午後の生活をみることについては抵抗があると文科省もいっている。
- 委員 保育園では 18 時までには正規の職員が家庭的な雰囲気保育をしている。保育園も子どもを預かりながら、次の日の準備等をいっぱい現在の現状の中でやっている。保育は養護ととらえられているが、3、4、5 歳になると、保育内容は幼稚園と同じようにねらいや課題をもって取り組んでいる。
- 委員 幼稚園は平均 4 時間の保育といわれているが、園庭開放をしているので、実際は 14 時 30 分まで子どもがいる。その後、休憩、事務、担任としてしなければならないこともあり、午後の時間はとても厳しい現状である。現場を見に来てほしい。
- 委員 保育園でも、どんな時間でもひねり出してやっている。保護者教育ということも考えると、ただ先生が預かるのではなく、保護者が一緒に来て、保護者がみるようなことを考えるとよいのではないか。
中途半端な預かりはよくない。もっと生産的な考え方ができないか。

- 委員 就労している人のための預かり保育はしっかりみていく、そうでない保護者については子どものタイプによって分け、保育の中身を変えていくなどの発想が大切ではないか。
保護者がいるところは子育て広場のような発想で午後の時間帯を過ごすなど、親も子も共に育つことを考えるとよいのではないか。そうなるとスタッフはあまり要らない。
- 委員 保護者の立場から意見を言わせてもらおうと、預かり保育の申請をすることが面倒で、あまり利用したくないのが現状である。フルタイムで仕事をするのであれば保育園に行けばよい。就労というと正社員というイメージが強く、正社員の人でも認めるとなると本来の幼稚園とはズレてくる。幼稚園は、経済的な事情からパートにいくなど、週のうち何日か仕事をする場合に預かりをするという形をとってほしい。就労のための預かり保育ということではなく、仕事上の都合で預かり保育を認めてほしい。
実際、幼稚園は大変である。幼稚園は30人から35人を一人で見ている。夜遅くまで仕事をしており、幼稚園の先生が預かり保育をするのであれば、ものすごく負担がかかる。預かり保育の需要が増えれば新たにスタッフを考えていく必要がある。
今の預かり保育は実情として利用しにくいので、使いやすくするための話し合いをしていくことが大切だと思う。
- 会長 愛知県高浜市の預かり保育支援事務局とはどういったことか。
- 委員 専任スタッフの募集、賃金の支給等の事務、雑用的なことをしていると思う。午後からの預かり保育を幼稚園の先生が行うのは実際大変だと思う。
- 会長 いろいろな知恵を借りながら対応していくことが大切である。
- 委員 発達障害児が増え、統合保育をしているので先生は複数になっているが、基本的には保育園も4、5歳児は30人を一人で担任している。幼稚園も保育園も基本的に同じことをしている。3、4、5歳は幼稚園も保育園もほとんど同じ基準でやっている。
- 委員 認定子ども園まで視野に入れるのか。公立幼稚園で幼稚園型の認定子ども園を考えていくことが県内でも起きている。将来的な課題として、公立幼稚園で認定子ども園を考えていく時期がくると思う。
- 委員 どういう活動内容をするかによって人が決まってくる。教育活動をするのであれば資格のある人が必要であるし、教育活動と切り離していくとすれば資格はなくてもよい。また、事故が発生した時の責任の主体をはっきりしておかなければならない。どういう活動内容を考えていくかでスタッフも決まってくる。
- 委員 幼稚園では参観日等は大勢の預かり保育を行っているが、毎日ではない。就労を認めて毎日預かるようになるとかなりの負担になるので、専任スタッフを考えていくことが必要だと思う。
- 委員 幼稚園を保育園と同じ発想に立つのであれば、相当数を毎日預かることになる。しかし、困った時だけとなると利用する数が少なくなる。その場合は教育活動というより、養護の面が強くなる。そこは方針を立てる必要がある。内容をどうするかを決定しなければならないと思う。
場合によっては保護者の力を借りて教師がかわるのがよいのでは。
- 会長 保護者のニーズはどうか。
- 委員 保育園は部屋の面積に対して子どもの人数が決まっている。今、3、4歳から入園の問い合わせがあるが、受け入れることができない現状がある。保護者のニーズには子どもがいる。子どもの健やかな成長を願うのであれば、行政としては選びやすい預かり保育を考えていかなければならない。保育園は受け入れたくてもいっぱい現状がある。
預かり保育という門戸を開けばパートで仕事をしている人も救われると思う。保護者が選べる場所を

つくっていくことが大切であると思う。

委員 他市では18時まで預かるところがほとんどであるが、倉敷市はなぜ16時なのか。これでは利用しようにもできないのではないかな。

会長 止むを得ない事情で預かるということで16時になっていると思う。

委員 止むを得ない事情でも16時では用事がすまないと思う。もう少しゆとりをもって時間を考えると利用しやすいと思う。

委員 地域によっては定員割れをしているところもあるが、入りたいけれど入れずに待っている人が多くいるところ（旧倉敷地区）は、幼稚園でカバーしていくのがよいのではないかな。就労支援も含めて預かり保育をしていけばよい。また、全部の園で一律にはできないと思う。地区で拠点園のようなものをつくってフォローしていくのがよいと思う。実情に応じて考えていけばよいのではないかな。

委員 幼稚園は送迎に車が使えない。それを取り払わないと保育園のような形での利用はできないと思う。

会長 駐車場を確保することを考えていかないと統廃合も進んでいかないとと思う。

委員 就労を受け入れるとした時、週単位、月単位で申請を出してもらうことも考えていく。そうすると、一月にどのくらいの利用者が見込まれるのか、どの時期に集中するのか、ある程度の数に分かってくると、どれくらいのスタッフが必要なのかといったことが見えてくるのではないかな。今の預かり保育の規則をどう修正していけばニーズに合う形になるのか、どの部分にどう手を入れることによってどの部分までカバーできるかなど、今の規則をこんな形に変えるとこんな受入れが可能になるといったものをつくっていただけたらもう少し具体的な話ができる。幼稚園の教師がするのがいいのか、専門スタッフがいいのか、保護者も加わって何かを考えていくのかなどアイデアを専門委員会の方で考えてもらいたい。

委員 預かり保育を旧倉敷地区の待機児童対策として非常に期待している。保護者のニーズを把握し、それからどうすべきかを考えて進むべき道を考えていくのがよいのではないかな。

委員 幼稚園の保護者は就労のための預かりがないのが前提なので、あまりニーズはないかもしれないが、保育園の保護者に聞くとものすごいニーズがあると思う。

委員 今、幼稚園の預かり保育はどのようなことをしているのか。教育活動というと疲れる子はいないかな。

委員 幼稚園には昼寝の設備はない。人数が少ない時は絵本を読んだりして室内で遊ぶことが多い。人数が多いときは外で遊んだりしている。

委員 教育活動という言葉は教育要領にある。ここでいう教育活動をどう考えるかだが、幼稚園でするから教育活動であってほしいということだと思う。しかし、保育園と同じように養護の面も大事にすることが大切である。

委員 保育園も昼寝の部屋は特にない。

委員 教育活動という言葉にこだわりすぎるとよくない。従来の教育活動とは種類の違うものとして考えていく必要がある。

会長 拠点園のようなものを見るとよいのでは。各園が勝手にするものではない。市が規定をきちんともってすることが大切である。

- 委員 預かり保育で何をするのかはもう少し議論して教育活動の部分をもっと整理する必要がある。そして、内容によって誰がたずさわるのかを考えていくことが大切である。時間については、遅くまですると空調設備等施設設備面で財政上の出費も出てくる。どこでもするのはなく、どこかの園を決めて預かり保育ができる体制にもっていくのがよいのではないかと。
- 会長 専門委員会で議論してもらい、それを基に議論していきたい。
- 委員 教育活動にこだわると子どもが疲れるのではないかと。預かり保育はほっとできる場が必要である。小学校の保護者も学童保育で勉強のことは思わない。幼稚園も教育活動的なことはあまり意識しなくてもよいのではないかと。
- 委員 幼稚園では絵本を読むことも昼寝をすることも教育である。預かり保育の教育活動はそのように理解してよいと思う。
- 会長 時間が16時までというのはどうか。長期休業中は行わないことについてはどうか。
- 委員 預かり保育の規定を緩和することによって園児数が増える、保育園の待機児童の解消に期待する、この2本の目的が考えられる。目的が若干違うのであれば、分けて考えればよいのではないかと。
- 会長 1本でいくのか。ダブルスタンダードでいくのかについて考えていく必要があると思う。
- 委員 保育園は子育て支援センターとしての機能を果たしている。幼稚園でも子育て支援が教育要領の中にかなりでてくる。対象を在園児に限るのか。場合によっては未就園児の預かりをするなど、少し拡大して考えていく必要があるのではないかと。保育園の場合はもっと広く考えている。そのあたりも検討してもらいたい。
- 会長 預かり保育と3歳児保育をどうするのがよいかと。幼保一元化を倉敷ではどう考えていくのか。
- 委員 別に一つにする必要はない。選択肢を広げるのはよいことだと思う。
- 委員 幼保一元化は行政の考え方である。子どもの立場に立ったら、早く帰る子とそうでない子がいるのはどうか。時間については何時が適切なかわからないが、保護者にアンケートをとると楽な方へ楽な方へいく。公立幼稚園の特徴である、親も育つ子も育つことを大事にすると、親もある程度時間を工夫し、子どもと接する時間を持ち、一緒に学区の小学校へ行くという流れを考えたい。遅くなればなるほど親は楽になる。倉敷市全体として、よい子いっぱい町を考えたとき、保育園の待機児童対策を考えたとき、どの時間が落としどころになるのか。専門委員会で出してもらって考えていくのがよい。
- 委員 幼保一元化は明治からずっと言われている。幼稚園と保育園を二元化しているのは、子どもたちを差別することになる。一体化しているところは小さいうちから子どもたちが交わるので、小学校でうまくいく。決して悪いことではない。将来的には幼保一元化は必要だと思う。まず行政が一元化も含めて考えていくことが大切だと思う。今こそ一元化をしていく方向にある。周りの市はどんどん進んできているので、倉敷市でも徐々に考えていきたい。
- 会長 ここでは4つの課題を与えられているので、その4点について集中的に話し合っていきたい。適正配置については、平成12年の答申は大事にしてほしいという思いがあるが、3歳児保育を広げる、預かり保育の幅を広げる、特別支援教育もしていくなど拠点園のようなものをつくりながら魅力ある幼稚園にしていく必要がある。最終的には充実した幼稚園教育を考えていく必要がある。適正配置についての意

見をお願いしたい。

委員 長期的な職員構成のシミュレーションを示してもらいたい。現実的なものとして考えていかなければならない。

委員 前回の答申の時よりも状況が全然変わってきている。次の段階は理想に近づけるというより、現段階で何ができるかという発想に立つことが大切だと思う。

会長 今のままでは非効率であろうと思う。スタッフのシミュレーションがあれば、統廃合が進む中で3歳児保育の展望がもてる。

委員 次回の希望として、平成22年までの統廃合の計画はあるので、平成22年の姿と預かり保育の平成18年の実績を出してほしい。
統廃合という手段以外に、これからの新しい役割を担う幼稚園の配置をエリアでシミュレーションできないか。3歳児保育、預かり保育、特別支援教育は全ての園で実施するのは不可能である。コストの面で考えても全ての園がこの3つを同時的にカバーするのは無理だと思う。
あるエリアの中にそれぞれの機能をもつ園を配置したときに、エリアでカバーできるという構想は立てられないか。
適正配置という問題を統廃合以外で考えることも必要な視点である。もう一つの視点としては、地域ニーズにどう応えるかということである。園があることで地域が活性するという部分は当然ある。統廃合で学校がなくなったエリアは必ず人口が減る。
平成22年の統廃合のエリアマップの中で、このエリアでこの園はこういう機能といった役割分担のような視点で事務局、専門委員会で検討してもらい、それを基に検討してもらった方がいいということであれば研究協議会で議論していく。研究の素材としてやってもらえるとありがたい。

委員 基本的に市内の全園で3年保育と預かり保育をした場合のシミュレーションも含めてやっていただきたい。全園でしたらどうなるか。エリアでしたらどうなるか。

会長 例えば中学校区に1園にし、そこはすべての機能をもたせることも考えていってもよい。そういうシミュレーションもしてほしい。

委員 スタッフの年齢層を加味してシミュレーションしていく必要がある。年齢指定、期間限定の採用も考えていかなければならない。

委員 福祉行政が行き過ぎると人間はよくなる。ニーズ、要望を聞き過ぎるとまずいと思う。基本は教育。そこを忘れず負けない気持ちでやってほしい。保育も教育もある程度の線を引く必要がある。

3 閉会あいさつ

平成20年 1月 7日

倉敷市立幼稚園教育研究協議会

会長 森 熊 男

